



大空を翔る

茨城県防災航空隊

消防には、ヘリコプターを使用し空から活動する部隊があります。それが、「茨城県防災航空隊(以下:防災航空隊)」です。防災航空隊は、1995(平成7年)4月に発足、つくばヘリポートに基地を置き、つくば航空(株)が受託運航するBK117C-2「つくば」という機体を使用して活動しています。

つくば航空(株)のパイロット及び整備士の他に、県内24消防本部から3年の任期で派遣される9名の隊員で構成されています。ヘリコプターの操縦・整備はつくば航空(株)の職員、災害現場での活動は県内の消防本部から派遣された隊員が担当して運用しています。



JA298R つくば
機 体：川崎式BK117C-2
全 長：13.03m
全 幅：3.119m
全 高：3.966m
燃料容量：最大866L/693kg
速 度：最大速度278km/h
飛行時間：最長3時間35分

防災航空隊の主な活動は、登山中のケガ人や遭難者を救助する山岳救助、海や川、湖での水難救助、最大600リットルの容量があるバケツを使って広範囲を効果的に消火する空中消火、ドクターヘリの補完的業務の救急活動、そして、災害発生時などの上空からの状況調査などです。

県内なら30分以内で現場に急行し災害に対応する機動力をもっているのが強みです。



ホイストを使って、現場に降下します



最大600L容量のバケツを使用した消火活動



災害現場の状況調査



当本部と防災航空隊との合同訓練も実施



人だけでなく、物資なども搬送します



定期的に行われる対空検査



市民の皆さまにお伝えしたいこと

山を愛する方へ

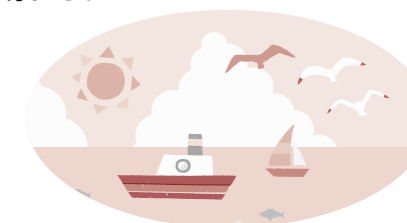
1. 地上からヘリが見えても、ヘリからは確認できない場合があります。**尾根の上**などで救助を待ちましょう。
2. 救助を要請した際は、**タオル**などを大きく振り合図を送りましょう。
3. 滑落事故の多くが登山道以外の下りで起きています。絶対に**道のない沢を下るのはやめ**ましょう。
4. 迷った場合は、夜はなるべく行動せず**朝まで待つ**て移動しましょう。
5. 登山計画書の提出はもちろんのこと、近くの山の場合でも家族の方に行程と帰宅予定日時を連絡しておきましょう。
6. **山の天気は、非常に変わりやすく事故が起こりやすい**ため、無理な行程は避けましょう。
7. 滑落事故で動けなくなり、**数日後に発見され無事生還された方**がいらっしゃいます。万が一、事故に遭われても、決して**あきらめない**でください。また、**予備の「水と食料」**を用意しましょう。
8. **携帯電話**は使用できない場合が多いです。使用可能ならば、警察・消防の指示に従いましょう。



海・川を愛する方へ

1. 水難事故における救助は、時間が勝負です。仲間だけで捜索するのではなく、事故が発生したら、すぐに118番（海上保安庁※海での事故の場合）、119番（消防）に通報しましょう。
2. **増水している河川は非常に危険**です。川遊びは、安全な場所と時を選びましょう。また、救命胴衣などを必ず着用しましょう。
3. **アルコールを摂取しての水遊びは危険**です。
4. 溺れている人を助けるときは、まず**自分の安全**を確保して救助しましょう。
 - ・できるだけ、**水に入らず、ロープや棒、竿**などを使い救助する。
 - ・自分が水に入る場合は、**救命胴衣**を必ず着用する。

以上のことを気をつけましょう



要救助者を救出する小西司令補



ホイストを操作する小西司令補



■ 航空隊 小西司令補からのメッセージ ■

ヘリコプターからの救助（以下：航空救助）は、活動の特殊性と職務の危険性を考慮して予期せぬことが発生する可能性が高いため、二次災害を起こさないよう最大限の安全管理を心掛けて活動しています。

また、ヘリコプターは「全天候型ではない」ということです。基本的にヘリコプターは、視界が確保できない、または、天候悪化があきらかである場合は、飛行を中止しなければならないことがあります。しかし、災害は多種多様化し、航空救助もそれに対応する必要があり、訓練では、あらゆる事案にも対応できるように常に問題提起を各隊員間で行い、実施しています。

私も、残り任期6ヶ月となりましたが、県民の安心・安全を守り、安全第一で活動したいと思っております。最後に、山の事故や水の事故は「起こらない」「起こさない」ことが最善ですが、もし起こしてしまった場合の対応と未然に防ぐアドバイスを下記にまとめましたので、ぜひ参考にしてください。